

全国学力・学習状況調査 が変わります。

これまでの調査からの変更点

全国学力・学習状況調査は、小学校6年生と中学校3年生を対象に毎年実施されています。

- 2019年度の調査から、中学校の教科に関する調査に新たに英語が追加されます。英語は、3年に一度程度の実施が予定されており、「聞く、読む、話す、書く」の4技能調査となっています。「聞く、読む、書く」調査は、筆記方式で45分間、「話す」調査は、学校のコンピュータ教室等のパソコン端末を活用した音声録音方式で1学級あたり5分間程度で実施されます。

- 小・中学校の教科に関する調査問題では、従来のA問題(知識・技能等)とB問題(活用等)という区分を見直し、知識・活用を一体的に問う調査問題に変更されます。
この調査では、身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力等に関わる内容が出題されます。

時間割モデル

小学校

1時限目	2時限目	
国語(45分)	算数(45分)	児童質問紙

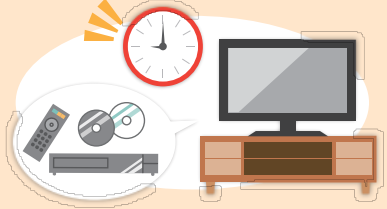
中学校

1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	
国語 (50分)	数学 (50分)	英語(45分) (聞く、読む、書く)	生徒質問紙	英語 (話す)

保護者の働きかけで子どもの学力が伸びる!!

平成25年度から平成29年度までの全国学力・学習状況調査の分析結果から、次のような場合に「子どもの学力が高い傾向がある」ことが分かりました。文部科学省が公表した分析結果の一部を紹介します。

☒ 学校の出来事、友達のこと、勉強や成績のこと、将来や進路、地域や社会の出来事やニュース等、会話がが多い。

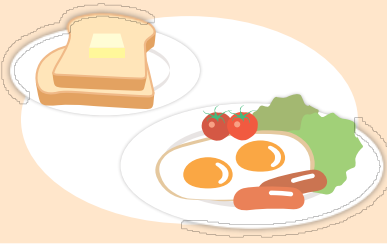
☒ テレビ・ビデオ・DVDを見たり、聞いたりする時間などのルールを決めている。

☒ 子どもに努力することの大切さを伝えている。

☒ 子どもに最後までやり抜くことの大切さを伝えている。

☒ 子どものよいところをほめるなどして自信を持たせるようにしている。

☒ 自分の考えをしっかりと伝えられるようになることを大切にしている。

☒ 毎日子どもに朝食を食べさせている。

☒ 地域や社会に貢献するなど人の役に立つ人間になることを大切にしている。

- 平成30年11月に行われた県学習状況調査結果によると、ゲームやスマートフォン等の利用について**家庭でルールを決め**、利用時間が**1時間未満**の子どもの教科平均正答率が高いという傾向がうかがえました。